

歴代税関長の中には、日本近代史に名を残すような傑出した人物がいました。
こちらでは代表的な 5 名を紹介しています。



初代税関長(運上所長官) うえの かげのり 上野 景範

明治4年9月～明治5年2月 弱冠25歳の特命全権大使
旧幕府薩摩藩出身。藩主島津公の命により長崎で英学を学ぶ。
維新後 1869(明治2)年ハワイ移民虐待事件のおり日本側の外交
主席使節としてハワイと交渉。難民救出に関する日本の主張を通し、
日本外交の輝かしい1ページを飾った。
税関長任期の後、米、英、オーストリア公使を歴任し、元老院議官
の要職に就任。



第3代横浜税関長 なかじま のぶゆき 中島 信行

明治5年10月～明治7年1月 土佐海援隊出身
旧幕府時代土佐海援隊で坂本竜馬や陸奥宗光と同志であった。
税関長就任時は27歳。在任中の1872(明治5)年11月28日、
それまでの運上所が「税関」と名称を変更。
税関長任期の後神奈川県令(知事)、初代衆議院議長、イタリア公
使、貴族院議員を歴任。男爵に叙せられる。

第4代横浜税関長 ほし星 とある亨



明治7年1月～明治7年7月 明治の傑物

1872(明治5)年より神奈川県に勤務。神奈川県令(知事)陸奥宗光に才能を認められ、弱冠24歳で税関長に就任。

在任中に税関公文書中の文言をめくり、英国公使パークスと争った。自説を主張し、一步も引かなかったが、日本政府が先に屈したため自ら税関長を辞任。

その後衆議院議長、米国駐在特命全権大使、逓信大臣を歴任するが、東京市議会議長在任中に暗殺される。

第8代横浜税関長 ありしま有島 たけし武



明治15年6月～明治24年7月 有島三兄弟の父

明治政府で横浜税関長、関税局長、国債局長を歴任。

横浜税関長時代には2代目税関庁舎建設に携わり、計画から施工まですべてを主導した。在任期間は歴代税関長最長。

退官後は実業家に転身し、第15銀行、日本鉄道、日本郵船などの重役を務めた。

作家の有島三兄弟(有島武郎、有島生馬、里見弴)の父でもある。

第11代横浜税関長 みなかみ水上 ひろみ浩躬



明治31年3月～明治38年9月 新港埠頭建設を主導

横浜税関長就任直後から横浜港の築港に尽力。

日本初の埠頭である新港埠頭を立案し、完成まで導くことで横浜港を東洋一の港へと押し上げた。

また税関事務処理の合理化、近代化を図るべく、業務改革を次々と実行。貿易に役立つ資料や統計の充実化にもつとめた。

のちに第3代神戸市長に就任。